

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果

1. 国語の調査結果の概要

正答率の高い項目

問題の概要	問題形式	正答率
2 (2) 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	選択式	84.2%
1二(2) オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	選択式	78.9%
2 (1) 高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	選択式	73.7%

正答率の低い項目

2三ア 【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	短答式	24.6%
1 三 オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	選択式	50.9%
3二(2) 【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に注目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	選択式	54.4%

(1) 分析

正答率の高い項目と、正答率の低い3つの項目について分析を行った。

<正答率が高い>結果から、以下の内容が多くの子童へ身に付いていることが分かった。

- ① 話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。
- ② 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にできる。
- ③ 情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。

以上の理由は、普段の話し合い活動で、メモを取る習慣ができていからだと考える。自分の意見をメモにまとめてから、集団で意見を合わせるよう指導しているため、図や表から読み取ることができたと考える。

また、正答率が高かった問題のほかに、記述式の問題が昨年より、正答率が上がっていた。これは、月1回の意見文トレーニングの取り組みにより、意見をまとめて書く力が身に付いたからだと考える。

<正答率が低い>結果から、多くの子童が以下の内容について苦手意識をもつことが分かった。

- ① 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。
- ② 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
- ③ 物語文を読んで、人物像を具体的に想像することができる。

以上の理由は、①③に関しては、文章を理解し、問題文で問われていることの内容を読み取る力が身に付いていないからだと考える。

(2) 対策

◎話し合いの活動の際、事前に目的や意図に応じて、自分の意見をまとめるようにする。

①国語や総合的な学習の時間などの話し合いの活動の際に、事前に話す内容を検討する時間を確保する。

②話す内容を検討する際、思考ツールなどを活用し、情報を整理する力を付ける。

◎文章を正確に読解し、正対して答えられるようにする。

①今年度より取り組み始めた「読むYOMUワークシート」を活用し、読売新聞の記事を基に作成された問題に答えることを通して、読解力を付ける。

②「文章を正しく読むことのできる児童の育成」をテーマに、校内研究を通して授業力改善に努める。

◎既習漢字の活用する場面を増やす。

①これまでの漢字学習の他、クイズやしりとり、ビンゴなどを取り入れ、児童の興味を高め、意欲を持続させる。

②意見文や日記などの指導の際に、既習漢字を必ず使うよう意識させる。